

平成27年度第3回 明石市総合教育会議（議事要旨）

| | |
|---------|--|
| 日 時 | 平成28年(2016年) 2月17日（水） 15:30～16:15 |
| 場 所 | 明石市役所議会棟 第3委員会室 |
| 出席者 | 泉房穂市長、公家裕教育長、田中陽三教育委員、川本まり子教育委員、井筒典久教育委員 |
| 協議・調整事項 | (1)教育大綱の策定について (2)今後の教育施策の推進について |
| 配付資料 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 出席者名簿 ・ 資料1 明石市教育大綱（素案）に対する意見募集結果について ・ 資料2 明石市教育大綱（素案）に対する明石市長期総合計画推進会議での主な意見について ・ 資料3 明石市教育大綱（最終案） ・ 資料4 第2期あかし教育プランの検討状況について ・ 資料5 第2期あかし教育プラン（案） ・ 資料6 教育委員会の平成28年度の主な取組（案）について |
| 事務局 | 明石市政策部政策室 |

1 開 会

2 議 事

(1) 教育大綱の策定について

- ・ 事務局から、資料1～資料3に基づき、素案からの変更点を説明。

（市長）

- ・ ご意見、ご質問等あれば、発言をお願いしたい。

（教育委員会）

- ・ 資料3 P.4の方針4について。「本のまち明石」の推進に向けて、学校図書館の一層の充実に関する文言を追加することは、子どもたちがより本を活用しやすい環境を整えていく観点から、望ましいと考えている。
- ・ 学校図書館については、学校司書を配置することができれば、なお良いと考える。
- ・ 学校図書館の市民への開放については、人的配置等行った上で、効果的に進めるべきである。

（市長）

- ・ 昨年12月に策定した市の総合戦略の中で、明石が掲げるトリプルスリーとして、本の貸出冊数年間300万冊を目標として設定している。
- ・ 「本のまち明石」の推進については評判が良く、応援する声もいただいている。

- ・明石駅前再開発ビル内に新たに開設する市民図書館を拠点に、「本のまち明石」の取組をまち全体へと波及させていきたい。
- ・明石の小中学生は年間何冊程度、本を読んでいるのか？

(教育委員会)

- ・学校図書館の貸出冊数で見ると、小学校は国語の授業の中で利用していることもあり、中学校と比較して多いが、貸出記録に残らないものまでは把握できていない。
- ・一部の小学校では、子どもたちが読んだ本のページ数を記録するような取組を始めており、それらも参考にしながら、今後、子どもの読書活動を一層促進する仕掛け作りも検討していきたい。

(市長)

- ・子どもたちには良書に触れ、そこから多くの気づきを得てもらいたいと考えており、学校現場でもできる工夫をお願いしたい。

(教育委員会)

- ・**資料3** P.4の方針3について。「家庭」を追加し、強調していただいた点については、教育委員会としても家庭教育が重要であると認識しており、全国学力・学習状況調査の結果について、家庭での生活習慣や学習状況と学力との関係性を分析した上で、各家庭にお知らせしているところである。
- ・また、貧困家庭に対する支援が課題であると認識しており、新年度予算においては、ひとり親家庭に対する支援が拡充されるとのことだが、児童福祉の面からも市長部局のバックアップをお願いしたい。

(市長)

- ・ひとり親、貧困など支援が必要な家庭への対応については、国の動向も踏まえながら、全庁的な取組として、早い段階で総合的に支援していきたい。

(教育委員会)

- ・**資料3** P.3の方針2について。豊かな心の育成に向けて、「命」とは人間だけではなく、幅広く様々な生物を含めた「生命」と捉えるべきだと考える。
- ・また、「共に生きる」とは、グローバル化や多文化共生の概念も含まれるのか？
- ・**資料3** P.3,4の「【参考】方針ごとの施策の方向性」について。計画期間中に記載内容を変更する予定はあるのか？

(事務局)

- ・「命」という文言の捉え方については、次期教育プランの表現と整合を図っていく。

- ・豊かな心の育成については、幅広い内容と関連することであるが、グローバル化に対応した教育などは、直接的には、次期教育プランの基本的な方策として掲げられている「社会情勢の変化への対応」の中で整理するものと考えている。
- ・教育大綱としての内容はP.2までである。P.3以降は記載のとおり参考であり、現時点での施策の方向性について記載したものであることから、施策の進捗度合や社会情勢の変化等に応じて内容を変更することは考えられる。

(教育委員会)

- ・**資料3** P.1の位置付けについて。「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正時期等の記載方法について、誤解が生じないよう文言の整理が必要である。

(市長)

- ・改めてお伝えしたいが、子どもたちに近い教育現場が重要であり、子どもの立場に立って一人ひとりの個性を大切にすることで、市長部局はその環境整備について、応援する立場である。
- ・事務局から提案があった教育大綱の最終案について、文言等の最終調整を行った上で、3月市議会で報告、公表してよろしいか。

(教育委員会)

- ・異議なし。

(2) 今後の教育施策の推進について

- ・教育委員会から、**資料4**に基づき、第2期あかし教育プランの検討状況について説明。また、**資料6**に基づき、平成28年度の主な取組（案）について説明。

(市長)

- ・教育大綱の最終案を踏まえ、次期教育プランの策定作業を引き続き進めていただきたい。
- ・新年度予算の主な取組（案）について、意見等があれば発言をお願いしたい。

(教育委員会)

- ・小学1年生への30人学級の導入について、きめ細かな指導につながることを期待される。
- ・発達障害を含む障害のある子どもが、集団のなかで他の子どもと同様に生活できるよう、合理的配慮に努めたい。

(市長)

- ・できる限り目配りして、より子どもに寄り添った教育環境を整えていきたいと考えている。

(3) その他

(教育委員会)

- ・青少年の健全育成のため、堺市では、コンビニエンスストアで販売されている成人向け雑誌に目隠し用のカバーを取り付ける取組が新たに行われる。
- ・目隠し用カバーを市費で購入し、協定を結んだコンビニエンスストアに取り付けを依頼するとともに、雑誌棚の設置場所について子どもの目に入りにくい場所へと移動してもらうとのことである。協力店舗に対しては、市が作成するステッカーを配布するようだ。

(市長)

- ・新聞に掲載されている週刊誌の広告記事にも過激な表現が含まれており、コンビニエンスストアだけではなく、社会の中では、そのような情報に接する機会や場が非常に多いという現実がある。
- ・関連するテーマとして、インターネットの利用制限についてはどうか？

(教育委員会)

- ・学校ごとに、生徒が主体となってルール作りに取り組んでいるところである。
- ・教育委員会として統一のルールを作るかどうかについては検討中である。
- ・いじめの問題についても、子どもたちが自ら考えてルール作りを行う取組を進めている。

(市長)

- ・スマートフォンのアプリケーションソフトであるLINEを悪用したいじめが全国的に増加していることもあり、気になるテーマの1つである。

(教育委員会)

- ・ICT（情報通信技術）を活用した教育を推進する一方で、インターネット等の利用の危険性について、子どもたちに教えることも重要である。
- ・現在、インターネットやSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を利用する上でのリスクについて伝える研修会を各学校で開催するなどの取組を進めている。
- ・子どもたちは、大人が考えているよりも早く、スマートフォン等の端末を使いこなして情報を入手していることから、ルール作りに取り組むとともに、子どもたちに自ら判断し、情報を適切に活用する力を身に付けさせる必要があると考える。

3 閉 会

(市長)

- ・今後も引き続き、市長部局と教育委員会がしっかりと連携して、明石の子どもたちのために教育行政を推進していきたい。

以上